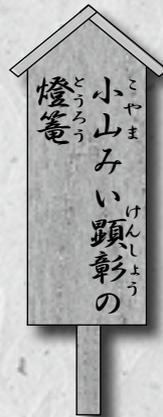


東区

街道を

ゆく



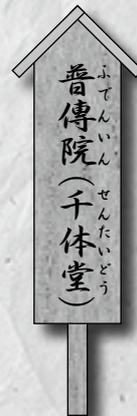
文政4(1821)年に生まれた小山みいは、機械で布を織る才能に秀でており、木綿の縞織を研究して、遠州織物を地場産業に定着させました。

従来の織物は、農家の副業的存在でしたが、小山みいは協力者と共に「永隆社」という織物同業組合を創設し、機械織りを専業化させました。同時に、製造、販売、弟子の育成にも尽力しました。

こうした小山みいの功績をたたえ、永隆社によって燈籠が建てられました。現在でも蒲神明宮の境内に見ることができます。



このコーナーでは、東区の街道周辺の史跡や文化を伝える資源解説板などを紹介します。



戦国時代、天竜川沿いの戦いで討ち死にした徳川・武田双方の将兵を供養するため、村人の寄付によって千体の木彫仏を安置した千体堂が姫街道沿いに建立されたと伝えられています。

現在、千体堂は普傳院に移され安置されています。



東区協議会だより

Vol. 80

1月27日(月)、第10回東区協議会が出席委員19人で開催されました。

協議事項について

東区協議会推薦会の報告と推薦案の協議について

平成26年度から東区協議会委員が改選されるにあたり、東区協議会推薦会では、推薦を依頼する公共的団体の選定、公募委員と直接指名委員の選考が行われました。東区協議会推薦会での会議結果と推薦案が提示されました。

自治会連合会からの協議会委員候補者の推薦は、東区自治会連合会から推薦するものなのか、各地区の自治会連合会で推薦するものなのか。

候補者の推薦方法は各団体にお任せしている。

推薦会では若年層の取り込みなど、年代についての協議はされているのか。

A 女性の登用や地区の割り当てなど、幅広く考慮したつもりである。特に女性委員については構成員の35%以上を登用しなければならないので、各団体からの候補者の推薦に、一部女性の推薦をお願いしていきたい。

報告事項について

今後における高齢者福祉施策のあり方について

高齢者福祉課から、全区の協議会で協議を進めてきた「高齢者福祉施策の方向転換」今後重点的に取り組む事業「市単独大型給付事業の見直し」について、最終案の報告が行われました。

削減されるものもあるが、力を入れる項目を強調してほしい。要介護者を減少させるといふ「ロコモーション」に力を入れることがもつと見えるようにしてほしい。

A ロコモの普及にあたっては、参加者一万人を目標に重点的に取り組んでいく。

Q ロコモ普及の目標、参加者1万人は妥当な数なのか。

A 高齢者の中には、身体機能に衰えのみられる人が、3万人ほどいる。その3分の1程度の人にはロコモに参加してほしいと考えている。

Q ロコモの年度別計画では、参加者は年々増加しているが、事業費は平成27年度以降伸びないのはなぜか。

A 事業費の大半は地域の集会所や自宅で取り組むための普及活動に必要な経費であり、あまり増減はないと考えている。

